



いんせきはどこから飛んでくるの

いんせきは、地球にしょうとつした岩石のかけら

宇宙から地球に落ちてくる岩石などのかけらを、いんせきといいます。いんせきは、宇宙から飛んできて、地球にしょうとつしたものです。

いんせきが地球にしょうとつするときの速さは、1秒間に数十キロメートルという速さです。いんせきがこのような速さで、地球にしょうとつする前に、いんせきは、地球をとりまいてくわいて、非常に高い温度になります。

ふつうは、この高い熱によって、いんせきが地上にくるまでに、全部燃えつきてしましますが、大きい物は全部燃えつきないで、残ったものが地上に落ちてくることがあります。これが、いんせきです。

小わく星から飛んでくる

太陽とその周りを回っている天体の集まりを、太陽系といいます。太陽系の中で、火星と木星の軌道(動いている道すじ)の間に、小わく星とよばれる、直径数メートルから千キロメートルの、小さな天体がたくさんあって、太陽の周りを回っています。

小わく星の中には、地球の軌道の内側まで入りこみ、地球に接近したり、しょうとつする可能性があるものもあります。いんせきは、小わく星の岩石のかけらが飛んできて、地球にしょうとつしたものです。(監修・国司 真)

